

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-119

学校名・団体名	九州小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	みんなで学び思考が高まる生活科・総合的な学習の時間～汎用的能力が育つ知のネットワーク化を中心に～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>九州地区の小学校生活科・総合的な学習の時間の学習指導に関する情報交換、研究調査、実践の推進を行い、その充実・振興を図ることを目的とする。熊本市立帯山西小学校を会場として研究大会を開催し、九州各県の生活科及び総合的な学習の時間の教育に関する情報交換並びに連絡・協議を行う。</p>	

1 対象者

九州各県の教職員（幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、教育行政関係者）300人

2 教科

生活科、総合的な学習の時間

3 活動のねらい

次期学習指導要領の改訂に向けて、子どもたちの未来を拓く生活科・総合的な学習の在り方を考える研究大会とする。キーワードは、「汎用的能力」「知のネットワーク化」「アクティブ・ラーニング」「カリキュラム・マネジメント」である。1・2年生活科、3～6年総合的な学習の時間の公開授業や、各県からの実践提案を行い、次期学習指導要領改定の方向や実践上の課題を明らかにする。

4 活動の特色

課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）の推進役となり、子どもに社会とかかわる力を培うための教育内容の組織（カリキュラム・マネジメント）の核となる生活科・総合的な学習の在り方を研究協議の柱とする。また、公開授業を通しての具体的な子どもの姿や、各県の特色ある実践事例を自由に紹介し合えるように、「思考ツール」を活用したワークショップ型の研究会を企画する。参加する教職員一人一人が、「アクティブ・ラーニング」を体験できるような新しい参加体験型の研究会の在り方についても提案する。

5 研究主題

「みんなで学び思考が高まる生活科・総合的な学習の時間」～汎用的能力が育つ知のネットワーク化を中心に～

(1) 主題について

① 「みんなで学ぶ」とは

個人間、グループ間の交流や協同して活動する場を保障し、課題を論理的に考える場や友達からの情報を受けて自分の中で再構成していく場を確保すれば、これまで気付かなかったことを発見したり、一人ではたどり着けなかった課題解決の方法や内容を見つけたりできると考えた。その過程で互いに身につけた知識や技能を共有し、補充、発展させることにより、知識の広がりや考えの深化、よりよい解決、新たなものの創出などが期待できる。

② 「思考が高まる」とは

子どもたち個々の知識や技能を情報としてやり取りすることで、新たな価値を見つけたり創り出したりできるようになる。その過程を思考が高まるととらえた。

③ 「知のネットワーク化」とは

子どもたちは新しい学習対象に出会い、既習の知識・考え方等を関連付けたり、他者とのやり取りの中で知識や認識が新たに関連付けられたり意味付けられたりする。それにより、学習対象に対する見方や考え方の広がり・深化、対象に対する自分たちの在り方が見えてくる。そのような子どもたちの思考、判断、表現等の場面を知のネットワーク化ととらえた。

④ 「汎用的能力」とは

汎用的能力とは、実生活で活用できる、子どもに必要な能力であり、生活科総合的な学習の時間の中で、汎用的能力を育てる「3つの力」を設定し研究を進める。「3つの力」とは、学ぶ力（課題を見つける力、情報を収集し、整理分析する力）、かかわる力（伝え合う力、他者と力を合わせて創り出す力）、見つめる力（自らのよさを見つめる力、生活に生かす力）である。

(2) 授業づくりの視点

汎用的能力を育てるために、授業づくりの視点として、次の4点を設定した。

① 視点1 【主体的に学ぶ探求的な学習展開の工夫】

探究学習では、問題解決的な活動が主体的に発展的に繰り返されるよう、「課題の設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」のプロセスをスパイラルに展開する。

② 視点2 【共に学び合う協働的な学習展開の工夫】

学習活動において次の3つの場を大切にし、知のネットワーク化を図る。

- ・収集した多様な情報を交換、活用して共に学ぶ場
- ・異なる視点から考えて共に学ぶ場
- ・力を合わせたり交流したりして共に学ぶ場

③ 視点3 【思考ツールの効果的な活用】

情報を可視化し情報の再構成のプロセスが見える思考ツールを用いることによって、気付きの自覚化を促し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

④ 視点4 【学びの達成感や自信をもたせ、学ぼうとする力を育てる評価の工夫】

- ・子どもが学びを実感し、探究への意欲が高められ学びをつなぐ途中の評価
- ・自己の変容や進歩に気づき、達成感や自信が得られ、さらに学びを続けようとする意思を育てる探究活動の最後における評価

6 活動の実際

《第10回九州小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究大会熊本大会》

○期 日 平成28年10月14日(金)

○会 場 熊本市立帯山西小学校 (〒862-0924 熊本市中央区帯山1-29-8)

○主 催 九州小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

○全体会① 9:00~9:45

・基調提案 熊本県小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究部長 山本幸恵

○公開授業① 10:00~10:45

【生活科】 熊本市立帯山西小学校 1年「たのしい学校～学校たんけんⅡ～」

【総合的な学習の時間】 熊本市立帯山西小学校 3年「私たちのまち帯西のひみつを探ろう」

熊本市立帯山西小学校 5年「菊池恵楓園との交流から学ぼう」

○公開授業② 11:00~11:45

【生活科】 熊本市立帯山西小学校 2年「わくわくどきどきまちたんけんⅡ」

【総合的な学習の時間】 熊本市立帯山西小学校 4年「階上小との交流から学ぼう」

熊本市立帯山西小学校 6年「ジュニエコ in 帯西を開こう」

○「震災時非常食」試食体験会 12:00~12:30

○分科会(授業研究会) 12:45~13:35

※ワークショップ型研究会(ファシリテーターによる進行)

※「思考ツール(付箋紙の活用、PMIシート、エリアチャート等)」を活用した授業検討

【生活科】 1・2年授業研究会

【総合的な学習の時間】 3~6年授業研究会

○分科会(実践発表) 13:45~14:45

【生活科】 宮崎県延岡市立西小学校 佐藤麻子 教諭

【総合的な学習の時間(中学年)】 西海市立大島東小学校 藤田律子 教諭

【総合的な学習の時間(高学年)】 指宿市立今和泉小学校 柏木辰公 教諭

○全体会②

・講演 15:00~16:30

講 師: 文部科学省初等中等教育局 視学官 田村 学 先生

「学習指導要領改訂の方向性 ～アクティブ・ラーニングと深い学び～」

・閉会行事 16:30~16:40

《現地学習巡検会》

○期 日 平成28年10月15日(土)

○会 場 熊本城周辺

○テーマ 「熊本地震による熊本城の被災状況」

・内 容 ボランティアガイドによる熊本城周辺の巡検 10:00~12:00

7 成果と課題

(1) 成 果

- ① 熊本大会では、研究主題の4つの視点を踏まえ、これまで曖昧でわかりにくかった「考える」ことを明確にするために「思考ツール」を効果的に活用し、主体的に学ぶ探究的な学習展開や共に学び合う協働的な学習展開が提案された。公開授業をとおして、研究主題に示された「みんなで学ぶ大切さ」や「汎用的能力の育成」「知のネットワーク化の必要性」などについての理解が深められた。
- ② 熊本地震により、大きく計画を変更しての研究大会となったが、県下全都市で協力体制をとり、無事に開催することができた。県外からの参加者も50名を超え、多くの方々の力を借りて熊本大会を実施したことは、今後に向けて、さらなる研究の広がりや深まりを期待できるものとなった。
- ③ 参加者からの感想より
 - ・子どもたちがとても意欲的に学習に臨み、生き生きとした活動や発言が聞かれた。
 - ・子どものわくわく感が45分間ずっと維持されて「やりたい、学びたいという意欲が溢れていた。
 - ・子どもたちは、自分の思いを理由まできちんと語っていて驚いた。みんなで学んだこと、友達の意見を自分で使おうと思って聞いている姿に感心した。自分のクラスでも広げたい。
 - ・復興への思いからスタートしてプレゼンする子どもの姿がすばらしかった。子どもたちが、日々の総合的な学習で育っていることが感じられ、すばらしかった。

(2) 課 題

- ① 「思考ツール」については、低学年からの積み上げが大切である。他教科との関連を図りながら、計画的に進めることができるように、今後もさらに研究を進めたい。
- ② 九州大会の内容・成果を各都市でさらに深め合い、県下の生活・総合的な学習の時間の充実を図っていく。